

学校教育目標

「進んで学び心豊かでたくましい子」の育成

<めざす児童像>

- ・ 考えて行動する子
- ・ 思いやりのある子
- ・ 最後までやりぬくたくましい子

《具現化のための取り組み》

考えて行動する子

◎学ぶことのすばらしさを味わうことのできる児童の育成

- ・ 筋道を立て、相手を考えながらまとめる言語活動の充実
- ・ ICT機器を活用した意見交換など、情報活用能力の育成
- ・ 外国語活動の充実
- ・ 発展的課題、工夫された課題に向かい合う質の良い授業
- ・ 地域の特性を生かした校理由と体験型学習の場の提供
- ・ 幼保小教育の円滑な接続

思いやりのある子

◎ふれあいを通して、様々なことを感じ、思いやりの心をもつことのできる児童の育成

- ・ 豊かな人間関係を育む学年学級づくり
- ・ 豊かな感性や思いやりの心を育てる読書の奨励
- ・ 全学年共通の「思いやり・あいさつ」の指導(あいさつ運動)
- ・ 多様性に配慮した、よりよい社会を築こうとする態度の育成
- ・ 共通の価値項目による道徳の時間と戦略的道徳の活用
- ・ キャリア教育、情報モラル教育の推進
- ・ いじめの根絶のための早期発見と迅速な対応

最後までやりぬくたくましい子

◎互いに喜びを分かち合い、最後までやりぬくことのできる児童の育成

- ・ みんなで作り上げる学校行事
- ・ 異学年齢集団による交流活動の推進
- ・ 体力向上を目指す授業改善
- ・ 児童の主体的な委員会活動
- ・ 9ヶ年を通したキャリア教育

<学校像>

～心優しく、元気で、互いに学び合う学校～

- ・ 仲間と共に、元気に楽しく学び合える学校
- ・ 自尊感情(自己肯定感)が高まり、活力と規律のある学校
- ・ いじめを許さない学校
- ・ 地域の学校として、愛される学校

<教師像>

～チーム小山小～

- ・ 児童の心に寄り添う教師
- ・ 常に学び続ける教師
- ・ 誠実に働く教師
- ・ 協働し共に向上できる教師
- ・ 教育に携わる心意気をもつ教師

<学校経営の方針>

- ・ 夢と希望を育む学校【系統的な学びの中で、一人ひとりの個性を伸ばし、夢や希望を育む学校づくり】
- ・ 活力ある信頼される学校【保護者・地域に信頼される学校づくり】
- ・ 地域とともに歩む学校【地域の人的環境、教育環境を積極的に活用した学校づくり】

<学校経営の重点>

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現
筋道を立て、相手を意識しながら、表現する言語活用力を育成 互いの考えを深めあう学習を取り入れた授業実践 ICT機器を活用し、ICT活用力を育成 本物に触れる授業実践
- ・ 豊かな心を育む教育の推進（戦略的道德の推進 温かい学年・学級づくり安心して生活できる環境の整備、あいさつ運動、清掃指導の充実）
- ・ 教職員の資質向上（校内研修テーマに基づいた研修の充実 研究会等への積極的な参加の奨励学校コンプライアンス推進体制の整備(教職員の不祥事の未然防止)）
- ・ 家庭・地域との連携及び協働（学校、家庭、地域との連携・協力による交通事故の未然防止学校ボランティア、地域人材の積極的・効果的な活用）

<指導の重点>

(1) 学校運営

- ・ 職員間の「報告・連絡・相談」を重視し、職員が常に連携して動ける組織作りに努める。
- ・ 主任活動に協力・支援し、自主的・積極的な運営の充実を図る。
- ・ 地域と連携し、地域の力を活用した、開かれた学校教育を推進する。

(2) 体育・健康・安全教育・食育

- ・ 基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ・ 食に関する指導の充実を図る。
- ・ 遊・友スポーツランキング等を積極的に活用し、体力の向上に努める。
- ・ 部活動の意義を浸透させ、積極的に参加させる。

(3) 学習指導 「主体的・対話的で深い学び」

- ・ 主体的な学習となるような素材の工夫と自分の考えを伝え合う場の工夫、わかったこと・できるようになったことをふり返る場の設定をした深い学びの視点に立つ授業改善。
- ・ 全ての児童にわかりやすい授業づくり・教室環境整備(ユニバーサルデザインの授業)を進める。

(4) 特別支援教育

- ・ 児童の実態に応じた弾力的な教育課程を編成し、特別支援学級と交流学級の担任が連携し、交流及び共同学習を積極的に進める。
- ・ 保護者との連携を大切にしながら、個々の実態に沿った合理的配慮の提供に努める。

(5) 生徒指導

- ・ 特別支援教育の視点に立った教育相談・カウンセリングの充実により、不適応行動の未然防止に努める
- ・ いじめの早期発見・早期対応に努める。いじめは許さない姿勢を徹底し、保護者と連携する。
- ・ 積極的な生徒指導により、児童が自分の良さを自覚できるようにする。
- ・ QU等の活用を図り、学級経営に生かす。

(6) 道徳教育

- ・ 思いやりや規範意識等を身につけられるよう、社会とのかかわりに目を向けた学習を促進する。
- ・ 体験活動を充実させ、道徳の授業により補充・深化・統合を図る。
- ・ 「考え・深める」道徳授業の実践を推進する。

(7) 特別活動

- ・ 意欲的に取り組むことによって自己有用感が高まり、児童の主体性を伸ばすことができる場を設定する。
- ・ 学級活動、児童会活動、学校行事を通して、教師と児童、児童相互の「共感的人間関係」を育てる。
- ・ 「自己決定」の場や機会を用意し、児童が自己実現の喜びを味わうことができるようにする。

(8) キャリア教育

- ・ 児童が働くことへの夢や希望がもてるよう、社会への関心を持たせる。
- ・ 職業人講話・職場体験学習等を積極的に企画・活用する。

(9) 職員研修

- ・ 時機を逃さず、課題に応じた研修を優先し行なう。
- ・ 職員の経験に応じた研修の充実を努める。

(10) その他

- ・ 読書活動を大切にし、本に親しませる。
- ・ 情報化社会の中、情報モラルについての徹底を全教育活動の中で行う。
- ・ 清潔で美しい校内環境を維持する。
- ・ 漢字・計算など基礎学習の充実を図る。(漢字検定の推奨)
- ・ プログラミング教育の実施
- ・ 校内での事故・ケガ発生時の対応
- ・ 報告・連絡・相談の徹底 自分一人で処理しない
- ・ 校内でのケガは、基本的に学校責任
- ・ 事後のケアの徹底 (家庭訪問・電話等)(連絡が遅れないこと)
- ・ 緊急時発生時には、救急車を呼ぶことをためらわない。
- ・ 「小山小指導のスタンダード」を整備・推進する。